

① 申請者	◎島根県津和野町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E				
③ タイトル							
津和野今昔～百景図を歩く～							
④ ストーリーの概要（２００字程度）							
<p>幕末の津和野藩の風景等を記録した「津和野百景図」には、藩内の名所、自然、伝統芸能、風俗、人情などの絵画と解説が 100 枚描かれている。明治以降、不断の努力によって町民は多くの開発から街を守るとともに、新しい時代の風潮に流されることなく古き良き伝統を継承してきた。百景図に描かれた当時の様子と現在の様子を対比させつつ往時の息吹が体験できる稀有な城下町である。</p>							
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>(上) 津和野百景図 第一巻 自一～至二十</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(右上) 津和野百景図 第二十図 鷺舞</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(右) 弥栄神社の鷺舞 (国重民)</p> </div> </div>							
⑤ 担当者連絡先							
担当者氏名	宮下 浩						
電 話	0856-72-1854	FAX	0856-72-1650				
E-mail	hiroshi-miyashita@town.tsuwano.lg.jp						
住 所	島根県鹿足郡津和野町後田〒 64 番地 6						

市町村の位置図

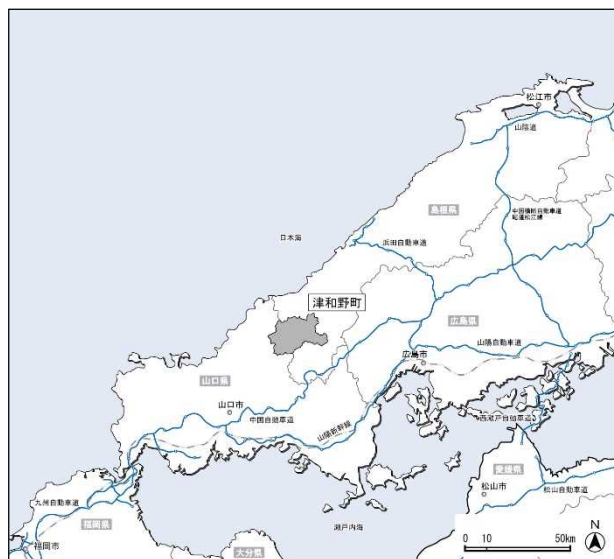
津和野町は、島根県の最西端に位置し、町域の北及び東側は益田市、南側は吉賀町、北西及び南西側は山口県の萩市及び山口市に接している。

主要都市との位置関係を距離(道路)でみると、島根県の県庁所在地・松江市からは約 190 km、広島市からは約 130 km、山口市からは約 60 km の距離にある。

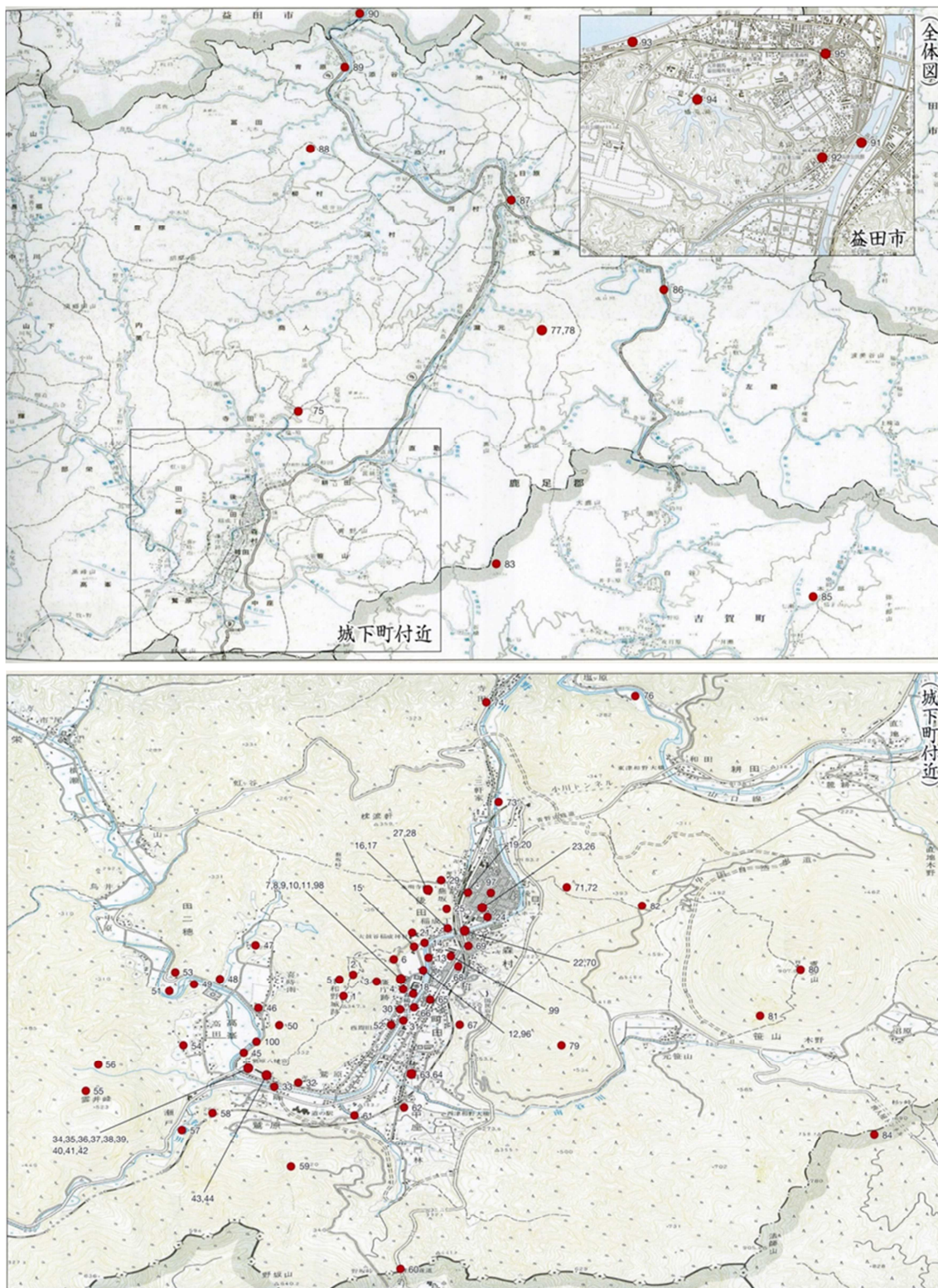
広域的な交通条件をみると、国道 9 号及び 187 号、主要地方道津和野田万川線、主要地方道萩津和野線などが走っている。

また、J R 山口線が通り、北から東青原、青原、日原、青野山、津和野の各駅がある。

さらに、南の吉賀町にある中国自動車道・六日市 I C が約 30km、北の益田市にある萩石見空港が約 25 km の距離にある。



構成文化財の位置図（地図等）



*地図内プロットの番号は、(様式 2-1)ストーリーの構成文化財一覧表のストーリーの中の位置づけの欄の番号と対応する。

ストーリー

津和野は、自然の美しい高津川水系に沿って町が形成され、青野山や城山など周囲を山々に囲まれた盆地に城下が発展しました。江戸時代、津和野藩は代々絵師を抱えて四季折々の津和野の名所や風習・風俗を襖絵や額などに描かせ、津和野の伝統文化である煎茶とともに藩士や津和野を訪れた人々をもてなしたといえます。

亀井家14代当主の亀井茲常^{これつね}は、最後の藩主亀井茲監^{これみ}の業績「以曾志乃屋文庫^{いそしのや}」をまとめるため、藩の御数奇屋番であった栗本里治^{さとへる}（格斎）に「津和野百景図」（以下「百景図」という。）の製作を依頼しました。後に鷗外とも交流のあった里治も藩主の側に仕えて茶礼・茶器を扱う仕事の傍ら、絵師から絵を学び、藩内を隈なく巡り藩内の名所や風俗、食文化等をスケッチしました。亀井家からの信頼が特に厚かった里治は、茲常から依頼を受けて3年8ヶ月の歳月をかけて100枚の絵を描き、それらに詳細な解説を加えて「津和野百景図」としてまとめました。

百景図に描かれた風景は、徳川慶喜の側近として活躍した明治の啓蒙思想家の西^{にし}周^{あまね}や、明治の文豪森^{りん}田^{たろう}太郎（鷗外）が藩校の養老館で学問に励んでいた時代のものです。彼らの自宅は御殿の郭の南側に位置し、周囲を田畑に囲まれていました。それぞれの家からは、西側に高く聳える津和野城の石垣が、また城の反対側には青野山を望むことができました。津和野城は御殿を含めて11枚が、青野山は「妹山」または「青野」の名で3枚、他の絵の借景にも8枚が描かれるなど百景図の中でも多くを占め、当時から藩民の精神的な拠りどころであったといえます。

彼らは鯉やウグイ（百景図では「いだ」）の群れる津和野川（通称「錦川」）に沿った道を下り、殿町通りにある藩校養老館^{ようろうかん}へ通うのが日課でした。途中、時間を惜しむかのように書物を読みながら藩校に通ったといわれていますが、途中にある御殿の建物群や、鷲舞^{さぎまい}神事が奉納される弥栄神社が今も当時のまま現存しています。殿町へは藩の総門を見ながら津和野大橋を渡ります。大橋はその後水害などで何度も架け替えられましたが、太鼓橋としての形状や傍に生える松の巨木が当時の風景を彷彿させてくれます。殿町通りには彼らが学んだ藩校や家老の屋敷が残り、当時藩が力を入れていた学問の気風が今に蘇ってくるようです。



百景図 十四 侯館前錦川のいだ



百景図 十六 弥栄神社

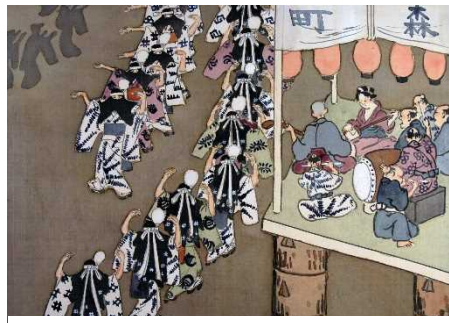
学問に励む傍らで、彼らの楽しみは一年を通じて行われる年中行事でした。春、鷲原八幡宮では満開の桜のもと流鏑馬神事が行われ、夏になると祇園祭にあわせて弥栄神社の鷲舞が笛と鐘の音にあわせ町の辻々で優雅に舞われました。また、お盆には覆面を被り浴衣を着た人々が盆踊りを町の各所で踊りました。この日だけは無礼講で、彼らもこの踊りの輪の中に加わっていたに違いありません。そのほか秋の紅葉狩りや、天神祭りで繰り出される神輿、正月の年始参りなども今も当時と

変わらぬ津和野の伝統行事です。

鷗外は作品「キタ・セクスアリス」の中で自宅の近所や、藩校への通学途中の様子、盆踊りの雰囲気などを描いていますが、まさに彼が見ていた世界そのものがこの百景図に描かれているのです。津和野を訪れると百景図の世界にタイムスリップすることができるのです。



百景図 十七 祇園会驚舞

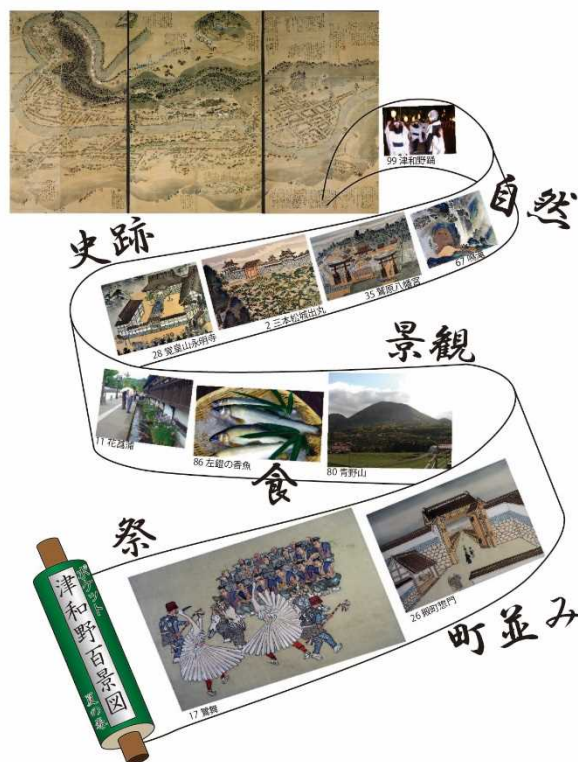


百景図 九九 盆踊

亀井家は明治になって東京に拠点を移していましたが、大正年間に津和野に別邸を設け、町の名士たちを別邸に招いて交流に努めました。家宝の一つであった「以曾志乃屋文庫」も津和野に移され、交流会のたびに百景図を招待者に見せて幕末の津和野の町の美しさを自慢していたといえます。その後、国鉄の開通や、国道、産業用道路の新設などの町の開発が行われましたが、町の名士たちは百景図に描かれた姿をできるだけ残そうと知恵を絞りました。現在百景図に描かれた風景や伝統行事などのうち約半数が幕末当時のまま残され、現在もなお体感できるのはこうした町民たちの不断努力によるものです。

津和野百景図に描かれている対象は、旧津和野藩全域に広がっていますが、大半が津和野城を中心として南北約 3 キロメートル、東西約 1.5 キロメートル四方に集中しています。

津和野を訪れると、西周や森鷗外らが見ていた風景を直接感じながら、徒歩や自転車等でゆっくりとした時間を過ごすことができます。また、四季を通じての伝統芸能や地域特有の文化に触れ、そして四季折々の食文化も堪能できます。幕末と変わらぬ風景に出会えることはもちろんのこと、百景図の絵を通して感じられる水や風の音、自然の醸し出す匂い、当時の生活文化を直接肌で感じられるというのが津和野の最大の魅力です。



津和野百景図を体感できるガイドブックのイメージ

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3) 番号は構成文化財の位置図と対応。	文化財の所在地 (※ 4)
1	津和野城跡	国史跡	1. 三本松城 2. 三本松城出丸 3. 御城坂吉野杉 4. 勢溜り 5. 城山の松茸 11. 御園内の花菖蒲 津和野の城下町を構成する主要な遺跡。山頂の石垣群と直下の御殿跡の一部が残る。花菖蒲は殿町通りで今も観光客の目を楽しませている。	
2	中島堰 ^{せき}	未指定	14. 侯館前錦川のいだ 津和野川には現在もいだ(うぐい)や鯉が泳ぐ。鯉は津和野の象徴となっている。	
3	弥栄神社	未指定	16. 弥栄神社 城下の北側一体を川の氾濫から守る位置に鎮座する。鷺舞神事が奉納される。	
4	弥栄神社の大櫓	町天然	16. 弥栄神社 樹齢 600 年以上といわれる古木。弥栄神社の御神木	
5	弥栄神社の鷺舞神事 ^{さぎまい}	国重民	17. 祇園会鷺舞 戦国時代、京都から山口を經由して津和野に伝わり、原型を今日に残す。夏の祇園祭にあわせて行われる津和野の代表的な神事。	
6	鷺原八幡宮の流鏝馬 ^{わしばら}	町無形	19. 祇園会に扮する流鏝馬 36. 鷺原のやつさ 小笠原流による古式に則った神事。鎌倉時代の原型を留める馬場を利用して行われる。神事の諸役を地元の住民が担う地域を代表する神事。	
7	太鼓谷稲成神社 ^{たいこだに}	未指定	21. 太鼓谷稲荷社 元来は盗難その他なくしたものがあつた時に祈願すれば必ず出てくるといわれ、遠くは九州から参拝者があつたという。今日では商売繁盛を祈願するため年間多くの人を集める。	

8	旧津和野藩家老多胡家表門 藩校養老館	国重伝建	23. 殿町 26. 殿町惣門 殿町通りに武家屋敷の建物が現存している。当時の面影を良好に残し、祭りや神事の舞台となる津和野のメインストリート。	
9	覚皇山永明寺	県有形	27. 永明寺坂 28. 覚皇山永明寺 代々藩主の菩提寺であったが、幕末に藩主が神道に変わったため、明治以降は檀家制になった。嘉永の大火の際、寺社奉行所が置かれた。	
10	奴行列	町民俗	32. 鷺原口屋外 46. 喜時雨庄屋の前 参勤交代や神社参拝や鴨猟などへの藩主の行幸の様子を今に伝える津和野の秋の代表的な行事。	
11	鷺原八幡宮流鏝馬馬場	県史跡	34. 鷺原大夜燈 38. 鷺原馬場 39. 鷺原の桜 40. 鷺原の紅葉 42. 鷺原片枝の松 鎌倉時代に整備されたといわれる流鏝馬神事専用の馬場で中央の土手には 3 箇所の的場がある。江戸時代以降、公園として多くの庶民に親しまれてきた。	
12	鷺原八幡宮	国重文	35. 鷺原八幡宮其の他 宮は鎌倉時代、鶴ヶ岡八幡宮から勘定された。城の裏鬼門にあたり、城だけでなく城下全域を守る。	
13	鷺原八幡宮の大杉	町天然	37. 鷺原愛宕神社の大杉 樹齢 1000 年以上と言われる鷺原八幡宮の御神木。	
14	田二穂鉾泉	未指定	45. 喜時雨崖 城下の周辺にはいくつかの鉾泉が湧く。城下のはずれにある田二穂の鉾泉は当時と変わらず湧き続けている。	
15	津和野神社	未指定	47. 縣社津和野神社 亀井家初代津和野藩主を祀る神社であった。社は火事で消失したが、後に再建され、今も地域の氏神として信仰の対象となっている。	

16	喜時雨釜跡 きじゅう	未指定	48. 瓦釜の松 嘉永の大火によって藩の御殿が消失した。藩は良好な土が取れる地に登り窯をつくり、御殿の瓦を焼かせた。崩れてはいるが、登り窯そのものが現地に残る。	
17	戦の大曲 いくさ	未指定	51. 幾久鴨御猟場 52. 藩侯幾久鴨猟略供 53. 幾久の峠 戦国期には陶氏との戦が行われたことからこの地名がついたと言われる。今でも冬季には多くの鴨が越冬にくる。	
18	白糸の滝	未指定	56. 白糸の瀧 和泉式部の子、小式部の産湯の水として利用されたという言い伝えがある。明治期は風穴が設けられ蚕の養蚕が行われた。今日でも地域の名所となっている。	
19	茶臼山	未指定	58. 茶臼山 名賀川(旧神田川)と津和野川が交わる地にある小山。藩主の歌にも歌われている。	
20	陶ヶ嶽 すえがだけ	未指定	59. 陶ヶ嶽 城下の南にあって長門国との境に位置する。戦国時代に陶晴賢が陣を張り三本松城主吉見正頼と対峙した。	
21	山陰道(野坂峠越え)	国史跡	60. 野坂 旧山陰道で、長門国との境の峠。幕末、第二次長州征討の際、城下に滞在していた幕府の軍目付を長州に引き渡し、城下を被災から守った舞台となった。	
22	庚申山 こうしんやま	未指定	62. 中座庚申堂 庚申堂は城下の南端にあって、山陰道がすぐ傍を通っていた。当時の蔵の石垣が残る。城下の境を示す札守の箱が設置されていたという。	
23	高崎亀井家跡 こうさき	未指定	63. 高崎邸 藩主亀井家の分家の屋敷跡。周囲を囲っていた石垣がおおよそ500mにわたって残る。背後の丸山は主庭の借景で、滝組石などが現存する。	

24	なるたき 鳴滝・鳴滝神社	未指定	67. 鳴瀧 古くから地域の信仰の対象となっており、修験寺及び文殊院があった。この瀑布は清水として有名で飲用水としても利用されてきた。	
25	津和野城外堀	未指定	68. 堀内御番所の景 69. 森の本町下モ手 山からの水が氾濫することが度々あったため、城の外堀として整備された。今では堀の大半は埋められて道路となったが、東側の一部が道路側溝として残されている貴重な遺跡である。	
26	しょうりんざん 松林山天満宮	未指定	71. 松林山天満宮 城下の北東（鬼門）の小高い位置にあって城下全体を見渡せる。江戸初期、主水畑の整備を指揮した多胡家の寄進による。社は建て替えられている。天神山として紅葉の名所となっている。	
27	しょうりんざん 松林山天満宮秋の大祭	未指定	72. 天神祭 松林山天満宮の秋の祭事。弥栄神社にある神輿を担いで城下を練り歩く。担ぎ手が不足してきたが、残したい地域の伝統行事である。	
28	蛸祭り	未指定	74. 寺田の蛸狩 城下を流れる錦川の下流で乱舞していた蛸は、現在城下の上流部でしかみられなくなった。しかし蛸狩りは今日でも引き継がれている夏の風物詩である。	
29	おんだき めんだき 雄滝・雌瀧	未指定	77. 小直の雄瀧 78. 小直の雌瀧 津和野藩の飛地へ至る奥筋往還沿いにある二つの滝は、藩主がしばしば遊覧した場所であった。今も豊富な水量を保っている。	

30	青野山	未指定	80. 妹山の景 81. 青野の原 82. 青野の虹 古くから信仰の山として、また丸みを帯びた形から石見の名所として絵画に描かれたり、柿本人麿の歌にも詠まれた名山である。また、玄表石と称する岩石を産出する火山で、その形成の仕方の特徴があることから、天然記念物の指定をめざしている。	
31	高津川の鮎	未指定	86. 左鐙の香魚 高津川の中流域では今日でも香魚（鮎）が多く取れる。左鐙地区は山が深く、平家の落人の伝説が今も語り継がれている。	
32	山陰道（徳城峠越）	国史跡	88. 徳丈の峠 城下から日本海側へ通じる山陰道的美濃郡境（益田市）に徳城峠越がある。峠の最高地点は日本海や青野山が望める絶景スポットであったという。	
33	津和野踊	県無民	99. 盆踊 鳥取から伝わったといわれ、この地で発展した念仏踊り。古くは城下のみで踊られていたが、今日では町内の各所で踊られるようになった。	
34	津和野百景図	未指定	津和野百景図本体 旧藩士栗本格齋が明治末～大正初期にかけて、幕末の津和野藩内の情景を描いた絵画。絹本に岩絵具を用いて描かれ、各 20 枚ずつ全 5 巻に分けてまとめられている。	









(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。









構成文化財の写真一覧









番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
1	 <p>津和野城跡（国史跡）</p>	 <p>津和野百景図 第一図 三本松城</p>
1	 <p>津和野城跡（国史跡）</p>	 <p>津和野百景図 第二図 三本松城出丸</p>
1	 <p>津和野城跡（国史跡）</p>	 <p>津和野百景図 第三図 御城坂吉野杉</p>
1	 <p>津和野城跡（国史跡）</p>	 <p>津和野百景図 第四図 勢溜り</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
1	 <p data-bbox="427 629 655 658">津和野城跡（国史跡）</p>	 <p data-bbox="965 629 1356 658">津和野百景図 第五図 城山の松茸</p>
1	 <p data-bbox="427 1066 655 1095">津和野城跡（国史跡）</p>	 <p data-bbox="930 1066 1391 1095">津和野百景図 第十一図 御園内の花菖蒲</p>
2	 <p data-bbox="512 1518 590 1547">中島堰</p>	 <p data-bbox="917 1518 1404 1547">津和野百景図 第十四図 侯館前錦川のいだ</p>
3	 <p data-bbox="499 1973 601 2002">弥栄神社</p>	 <p data-bbox="1048 1973 1272 2002">第十六図 弥栄神社</p>









番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
4	 <p data-bbox="403 633 699 667">弥栄神社の大樺（町天然）</p>	 <p data-bbox="1050 633 1273 667">第十六図 弥栄神社</p>
5	 <p data-bbox="379 1061 707 1095">弥栄神社の鷺舞神事（国無民）</p>	 <p data-bbox="954 1061 1369 1095">津和野百景図 第十七図 祇園会鷺舞</p>
6	 <p data-bbox="379 1514 707 1547">鷺原八幡宮の流鎗馬（町無形）</p>	 <p data-bbox="890 1514 1425 1547">津和野百景図 第十九図 祇園会に扮する流鎗馬</p>
6	 <p data-bbox="379 1966 707 2000">鷺原八幡宮の流鎗馬（町無形）</p>	 <p data-bbox="930 1966 1393 2000">津和野百景図 第三十六図 鷺原のやつさ</p>







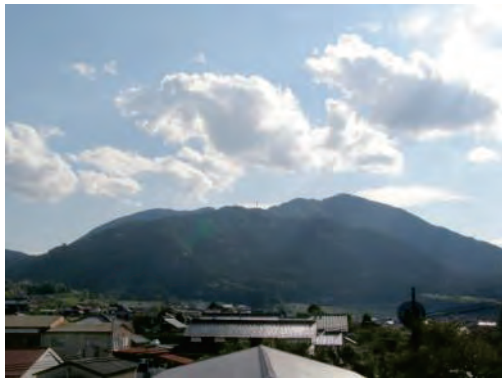

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
7	 <p data-bbox="459 636 635 667">太鼓谷稲成神社</p>	 <p data-bbox="914 636 1417 667">津和野百景図 第二十一図 太鼓谷稲成神社</p>
8	 <p data-bbox="260 1070 826 1102">旧津和野藩家老多胡家表門・藩校養老館（国重伝建）</p>	 <p data-bbox="975 1077 1356 1108">津和野百景図 第二十三図 殿町</p>
8	 <p data-bbox="260 1525 826 1556">旧津和野藩家老多胡家表門・藩校養老館（国重伝建）</p>	 <p data-bbox="951 1554 1362 1585">津和野百景図 第二十六図 殿町惣門</p>
9	 <p data-bbox="411 1989 667 2020">覚皇山永明寺（県有形）</p>	 <p data-bbox="951 1989 1362 2020">津和野百景図 第二十七図 永明寺坂</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
9	 <p>覚皇山永明寺（県有形）</p>	 <p>津和野百景図 第二十八図 覚皇山永明寺</p>
10	 <p>奴行列（町民俗）</p>	 <p>津和野百景図 第三十二図 鷺原口屋外</p>
10	 <p>奴行列（町民俗）</p>	 <p>津和野百景図 第四十六図 喜時雨庄屋の前</p>
11	 <p>鷺原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p>津和野百景図 第三十四図 鷺原大夜燈</p>









番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
11	 <p data-bbox="379 624 727 654">鷺原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p data-bbox="951 631 1362 660">津和野百景図 第三十八図 鷺原馬場</p>
11	 <p data-bbox="379 1077 727 1106">鷺原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p data-bbox="951 1086 1362 1115">津和野百景図 第三十九図 鷺原の桜</p>
11	 <p data-bbox="379 1527 727 1556">鷺原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p data-bbox="951 1536 1362 1565">津和野百景図 第四十図 鷺原の紅葉</p>
11	 <p data-bbox="368 2011 718 2040">鷺原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p data-bbox="927 2011 1385 2040">津和野百景図 第四十一図 鷺原時雨の松</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
11	 <p data-bbox="379 622 726 651">鷲原八幡宮流鏝馬馬場（県史跡）</p>	 <p data-bbox="927 629 1386 658">津和野百景図 第四十二図 鷲原片枝の松</p>
12	 <p data-bbox="427 1077 679 1106">鷲原八幡宮宮（国重文）</p>	 <p data-bbox="901 1084 1410 1113">津和野百景図 第三十五図 鷲原八幡宮その他</p>
13	 <p data-bbox="389 1512 691 1541">鷲原八幡宮の大杉（町天然）</p>	 <p data-bbox="888 1516 1423 1545">津和野百景図 第三十七図 鷲原愛宕神社の大杉</p>
14	 <p data-bbox="488 1998 609 2027">田二穂鉦泉</p>	 <p data-bbox="948 1995 1362 2024">津和野百景図 第四十五図 喜時雨崖</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
15	 <p>津和野神社</p>	 <p>津和野百景図 第四十七図 縣社津和野神社</p>
16	 <p>喜時雨釜跡</p>	 <p>津和野百景図 第四十八図 瓦釜の松</p>
17	 <p>戦の大曲</p>	 <p>津和野百景図 第五十一図 幾久鴨御猟場</p>
17	 <p>杉片河</p>	 <p>津和野百景図 第五十二図 藩侯幾久鴨胤略供</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
17	 <p>戦の大曲</p>	 <p>津和野百景図 第五十三図 幾久の峠</p>
18	 <p>白糸の滝</p>	 <p>津和野百景図 第五十六図 白糸の瀧</p>
19	 <p>茶白山</p>	 <p>津和野百景図 第五十八図 茶白山</p>
20	 <p>陶ヶ嶽</p>	 <p>津和野百景図 第五十九図 陶ヶ嶽</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
21	 <p>山陰道「野坂峠越え」(国史跡)</p>	 <p>津和野百景図 第六十図 野坂</p>
22	 <p>庚申山</p>	 <p>津和野百景図 第六十二図 中座庚申堂</p>
23	 <p>高崎亀井家跡</p>	 <p>津和野百景図 第六十三図 高崎邸</p>
24	 <p>鳴滝・鳴滝神社</p>	 <p>津和野百景図 第六十七図 鳴瀧</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
25	 <p data-bbox="461 719 620 748">外堀（橋の跡）</p>	 <p data-bbox="914 725 1398 754">津和野百景図 第六十八図 堀内御番処之景</p>
25	 <p data-bbox="475 1151 606 1180">外堀（一部）</p>	 <p data-bbox="914 1158 1398 1187">津和野百景図 第六十九図 森の本丁下モ手</p>
26	 <p data-bbox="475 1583 620 1612">松林山天満宮</p>	 <p data-bbox="914 1588 1398 1617">津和野百景図 第七十一図 松林山天満宮</p>
27	 <p data-bbox="427 2022 670 2051">松林山天満宮秋の大祭</p>	 <p data-bbox="962 2022 1350 2051">津和野百景図 第七十二図 天神祭</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
28	 <p>蛸祭り</p>	 <p>津和野百景図 第七十四図 寺田の蛸狩</p>
29	 <p>雄滝・雌滝</p>	 <p>津和野百景図 第七十七図 小直の雄滝</p>
29	 <p>雄滝・雌滝</p>	 <p>津和野百景図 第七十八図 小直の雌滝</p>
30	 <p>青野山</p>	 <p>津和野百景図 第八十図 妹山の景</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
30	 <p>青野山</p>	 <p>津和野百景図 第八十一図 青野の原</p>
30	 <p>青野山</p>	 <p>津和野百景図 第八十二図 青野の虹</p>
31	 <p>高津川の鮎</p>	 <p>津和野百景図 第八十六図 左鐙の香魚</p>
32	 <p>山陰道「徳城峠越」(国史跡)</p>	 <p>津和野百景図 第八十八図 とくじやうの峠</p>

番号	現在に残る歴史的資産	津和野百景図にみる歴史的資産
33	 <p>津和野踊 (県無民)</p>	 <p>津和野百景図 第九十九図 盆踊</p>

番号	現在に残る歴史的資産
34	 <p>津和野百景図</p>